



大雨による気象災害から身を守りましょう

夏から秋にかけての季節は、雨に伴うさまざまな災害が発生する季節でもあります。例として

- ・地盤が緩んで発生する、土石流や崖崩れなどの『土砂災害』
- ・短時間での局地的な雨により発生する、低い土地での『浸水害』
- ・河川の増水により発生する、氾濫などの『洪水害』

などが挙げられます。

雨に伴う災害の注意点

大雨や洪水の警報・注意報は、これまでの降雨量や今後の予測だけではなく、どのような雨の降り方をしたか、また、川の上流部など離れた場所での雨量も考慮して発表しています。このため、皆さんの周囲が大雨でなくても、警報や注意報が解除されるまでは警戒や注意を怠らないください。

また、気象台が発表する警報や注意報では、本文の中で、どのように警戒・注意すべきかを期間とともに

お知らせしています。テレビやラジオなどで発表を知ったときには、登別市防災メールや気象台ホームページなどで内容を確認し、避難情報などに注意を払いましょう。

日頃からの備え

防災マップなどに日頃から目を通し、自宅の近くに川や傾斜地があるかなどを確認して、住まいの周辺に潜む危険を理解しておき、大雨などの警報が発表された際には、洪水・土砂災害に対応した避難所へ避難しましょう。



普段の備えと、警報・注意報などの気象情報を積極的に収集し、気象災害から身を守りましょう。

問い合わせ

室蘭地方気象台

(☎) 424249

人が輝き まちがとぎめく

仲間たち

Group

郷土資料館ボランティアグループ『SLG』

スタディ、ライブ、グループの頭文字で、『学んで生きる仲間たち』を意味する『郷土資料館ボランティアグループ「SLG」』。発足から22年目の現在、62歳から93歳までの男女23人が、工作教室やそば打ち、包丁研ぎなどの多彩な体験学習や館内案内を行っています。

「体験学習は、日本の伝統や文化を切り口に、それぞれのメンバーの得意分野を生かしたものとされており、私たち自身も楽しみながら、子どもにも大人にも喜んでもらえる体験学習を行っています。活動に生きがいを感じているメンバーもたくさんいますね」と話すのは会長の工藤章造さん。



参加者の喜ぶ顔を見るとわたしたちもうれしくなります。



▲参加者の笑顔のため一生懸命指導

「今後も、参加者の期待に応えられる取り組みをしていきたいです」と笑顔を見せます。

文化伝承の一翼を担っていることへの思いのもと活動するSLGメンバーの皆さん。メンバーの一人としてその活動を間近で見てきた同館館長の吉野幸広さんは「参加者の喜ぶ顔が皆の原動力になっている」と言います。

友人に誘われ、1年半前に入会した金澤水江さんは「入会した当初は、さまざまな体験学習を行っていることに驚きました。いろいろな活動ができることが楽しく、人との触れ合いは、自分にとってとても良い刺激になります。子どもたちの笑顔は何よりうれしいです」と活動の魅力を語ってくれました。

若い方の入会も大歓迎のSLG。入会希望の方は、郷土資料館(☎) 13339)まで。